

東北地区王座注意事項

〈出場資格〉

4年制大学において、登録年度数及び在籍年度数は4年以内とする。ただし、医学部系大学において6年以内、短期大学は2年以内とする。6年制の薬学部に関しては、医学部学生と同等の扱いとする。

上記に基づいた上で、他の地域連盟より移籍した場合、登録年度数及び在籍年度数が通算して4年以内ならば出場資格を有する。

〈試合形式〉

男子の試合は1対抗のポイント数は複3、単6の合計9ポイントとする。女子の試合は1対抗のポイント数は複2、単3の合計5ポイントとする。試合は全て The Best of 3 Tie Break Set Match（ファイナルセット延長セット方式ではない）使用ボールは公認ダンロップ FORT、ボールチェンジは 9-11-11 とする。試合前のウォームアップは5分とする。本大会はラウンドロビン方式に基づき行うものとする。ラウンドロビン方式における順位は以下の1～4の順に決定する。

1：勝率の高いチームを上位とする。

2：2チームが同率となった場合には、お互いの対戦結果（直接対決）の勝者。

3：3チームが同率になった場合は、以下の要素で順位をつける。

(1) 総勝利試合数の多いチームが上位

(2) (1)が同じ場合、全試合での取得セット率が多いチームが上位

(3) (2)が同じ場合、全試合での取得ゲーム率が多いチームが上位

4：上記各項目で順位が決定できない場合は、くじ引きによって順位を決定する。

◎ ノーショウ、または失格者の取得ゲーム率は全て0とする。(60 60)

◎ 怪我によるリタイアの場合は、勝者はリタイアの後、残りのゲーム数を全て勝ったとしてゲーム数を記録し、敗者はリタイアするまでに取得したゲーム数を記録する。(A 対 B で、B が 63 22 の時、怪我でリタイアした場合、勝者は A でスコアは、36 62 60 と記録する。)

1. ルール・コードオブコンダクト

ルールは、「JTA テニスルールブック」の最新刊のテニス規約に基づき、コードは JTA ルールに基づく。

2. 試合進行及び試合開始時刻

勝敗が決定している時は天候その他の状況によって打ち切る場合もある。

ダブルスのオーダー交換を 9:00 に行い 9:10 には試合を開始する予定である。また、ダブルスの全試合が終了後、すぐにシングルのオーダー交換を行う。また、シングルのオーダー交換の際に、オーダーの書き直しを行う場合はコートレフェリーに伝え、シングルのオーダー交換の時間を 10 分間遅らせることが可能である。シングルのオーダー交換終了後、ダブルスと同様に 10 分後には試合を開始することとする。

レストの時間についてはダブルスからシングルのオーダー交換を行う為、以下の通り定める。

試合時間 60 分未満	: 30 分
60 分以上 90 分未満	: 40 分
90 分以上	: 60 分

3. 服装について

- (1) 選手の服装はテニスウェアであれば色の指定はない。しかし、試合中のウォームアップウェア、トレーナーの着用は認めない。ただし試合中のベスト、セーター、カーディガンの着用は認める。
- (2) ロゴは「JTA テニスルールブック」に基づき、違反ロゴに対するテープの使用は認めない。
- (3) 大学名の商業ロゴについては団体戦のみ大きさの規定はない。
- (4) インナーの着用
インナー（コンプレッションウェア）の着用は「JTA テニスルールブック」に基づく。ただし、医師の診断書の提出があった場合、大会レフェリーの判断次第では膝丈以上の長さのインナーの着用を認める場合がある。

4. オーダーについて

試合開始時に、学連提出用と相手校提出用の 2 枚を用意し、整列する。

両校主将挨拶時に相手校提出用は相手校へ、学連提出用については試合開始式を行っている学連にその場で手渡す。

5. オーダー、オーダー用紙のミスのペナルティについて

- (1) オーダー規約に基づかない順位で発表されたオーダーに関しては
 - ・その誤りのあった対戦を没収（単複どちらのオーダー交換時も共通）例) 本来、A・B・C の順で固定であったオーダーを、誤って A・C・B の順で提出し相手校に提訴された場合
→C・B の試合を没収、提出した大学側の 2 敗となる
注：オーダー規約違反に関しての提訴は、複・単共にその試合の終了までとする。
注：主将・主務・質疑権所有者以外からの提訴は受け付けない。
注：オーダー規約を確認するための過去の地方大会の資料の貸し出しは学連からは

行わない。

(2) 記入ミスについて

例) 部印がない、氏名・大学名の漢字が間違っている場合など(違う大学名が書いているなどは除く)

→特に罰則はない

(3) オーダー交換時に学連提出用、相手校提出用オーダーのどちらかがない、またはどちらもない場合

→そのオーダー交換における該当試合をすべて没収とする。

6. トイレットブレイクについて

(男子) 1試合につきシングルス1回、ダブルス1組2回、トイレを理由に原則としてセットブレイク時に理にかなった時間内でとることができる。

(女子) 1試合につきシングルス2回、ダブルス1組2回、トイレ又は着替えを理由に原則としてセットブレイク時に理にかなった時間内でとることができる。

(ベンチコーチ)

選手と同じ時にトイレットブレイクをとることができる。この場合は、選手と共にトイレットブレイクに行くことができる。

しかし、トイレットブレイク中におけるコーチングは警告の対象とし、トイレットブレイク中に第三者と話した場合はベンチコーチに戻ることができない。又その後のベンチコーチの補充もできない。

注：ウォームアップ中も試合中と同様、回数に数える。

注：トイレットブレイクにはコートレフェリーがついていく。

注：トイレットブレイク終了後の余りの時間はレストとして使用できない。

7. ベンチコーチ

エンドチェンジ間の90秒、セットブレイク時の120秒間にベンチコーチから選手はコーチングを受けることができる。(各セット第1ゲーム終了後、またタイブレイク時のエンドチェンジ間ではコーチングをしてはならない。)

ベンチコーチは部員・監督の他ベンチコーチ登録名簿に記載されている者が行うことができる。

ベンチコーチの交代は自由とし、交代の際は主審並びにコートレフェリーに伝えた後入ることができる。又交代のタイミングはコーチングができるタイミングとする。

注：ベンチコーチの警告は1回目注意、2回目警告、3回目退場とする。又、退場した場合その試合のベンチコーチは認められない。

注：ベンチコーチは必ずテニスウェア、テニスシューズを着用すること。

8. 質疑権所有者

質疑権は、各大学主将・主務の一方にある。ただし主将主務両名が試合やベンチコーチ等でコート内に入り、不在の場合は、ほかの部員が代理として質疑権所有者になることを認める。各主将・主務は試合前、および試合進行中に質疑権の所在をコートレフェリーに明らかにしなければならない。

質疑権所有者：試合進行上でコートレフェリー（レフェリー）に質疑する権利がある。しかしジャッジ等の事実問題でもめた際にはコートに入ることはできない。

選手：主審にそのプレーに対する判定に質疑することができるが、レフェリー（コートレフェリー）に対して、講義することはできない。ジャッジの最終決定権は主審にあり、それに対して質疑する権利はあるが、抗議する権利はない。

9. ペナルティの基準

JTA 公式ルールブックのコードオブコンダクトに準ずる。

・野次などの不正な応援に対するペナルティ

チーム戦における応援妨害や不正応援

選手のプレーを妨害する応援や、他人に不快感を与える応援については、主将・主務・質疑権所有者の提訴があった場合、コートレフェリー又はレフェリーの判断でチーム戦での妨害応援（パルチザンクラウド）を決める。

又、限度を明らかに超えていると判断した場合は、提訴がない場合もペナルティを課す場合がある。

ペナルティについては以下の通りとする。

1・2回目：警告

3回目：当該コートのみ応援禁止（このペナルティはその対戦の間のみとする）

4回目以降：全コート応援禁止（このペナルティはその対戦の間のみとする）

以上の注意・警告を与えられてもなお良識を欠くと判断されるような応援が続く場合には、学連内で会議を行いさらに新たな罰則を科す可能性もある。

注：コロナウイルス感染対策のため、応援は拍手のみとする。

10. メディカルタイムアウト・メディカルトリートメント

(1) メディカルタイムアウト

試合中（ウォームアップを含む）の怪我や体調不良のため、トレーナーの応急手当が必要な場合、チェアアンパイアを通じて、トレーナーを要求することができる。原則として、次の

エンド交代時、セットブレイク時にメディカルタイムアウト (MTO) をとることができる。
緊急を要する場合には直ちに MTO をとることができる。

MTO はトレーナー又はドクターの診療が終了し、実際に手当を開始した時に始まる。状況によっては、コート外で MTO が取れる。MTO は原則として 3 分を超えてはならない。
1 部位の症状につき 1 回の MTO が取れる。熱中症に関する症状は、1 試合につき 1 人 1 回だけ MTO が取れる。症状がほかの部位にも影響して発症した場合は、(同時に 2 カ所以上で発症した怪我でも、関連性があるもので原因が一つと判断されれば) 全体として一つの症状とみなされる。

筋痙攣の場合は、選手はエンド交代時又はセットブレイクの時間内に限り処置を受けることができる。筋痙攣の処置で MTO は与えられない。

同時に 2 カ所以上に怪我を負った場合は、あるいは体調が悪くなって同時に怪我もした場合は、レフェリーの許可を得れば、2 回続けて MTO を取れる。ただし、トレーナーは 2 回連続の MTO を取るかどうかを 1 度の診察で判断しなければならない。

(2) メディカルトリートメント

選手はエンド交代時 (90 秒)、セットブレイク (120 秒) の時間内に手当を受けたり、ドクターから医薬品を受け取ったりできる。MT は 1 試合につき部位に関わらず 2 回までであれば MTO の前でも後でも取ることができ、その 2 回は連続するエンド交代時でなくても良い。ただし手当のできない症状の場合には、メディカルトリートメントは適用されない。

(3) MTO と MT の併用について

MTO、MT、トイレットブレイクに関しては、一回のエンドチェンジもしくはセットブレイク時にどれか一つのみを選択するものとする。(トイレットブレイクはセットチェンジ時のみ)

A チームがセットブレイク時に MTO もしくはトイレットブレイクを取り、B チームが MT を取ったとする。この際に A チームの MTO もしくはトイレットブレイクが MT の時間内に終わらなかったとしても、B チームの MT が A チームの MTO またはトイレットブレイクに合わせて処置時間が延長されることはない。

→チェアアンパイアは、MT に対し、60 秒もしくは 90 秒でタイムをかけることとする。

11. 物資の供給

物資の供給は、必ずコートレフェリーを介してコート内に供給すること。